



町民の健康管理を徹底せよ

関 幸悦 議員

保健センターで展開していく

町長



保健師による健康指導で安心

管理栄養士の採用を

町内で医療費・高額医療費の増大、生活習慣病である高血圧症になっていく方が多いとデータに表れている。社会情勢の変化に対応し、健康増進などの対策を充実し効果を上げるために、福祉部門に管理栄養士(※)の正規職員を採用し、町民の健康管理をする考えは、

町長 食習慣については、食生活・栄養改善を行い、疾病の発症・重病化の予防をすることが必要。そのスペシャリストを配置して、指導していくことの必要性は認識している。

管理栄養士の職員の配置は、現在の状況を踏まえ「保健センター」で事業展開が可能か検討していく。

※管理栄養士

厚生労働大臣の免許を受けた国家資格。病気を患っている方などに専門的な知識と技術を持って栄養指導や給食管理を行う。

福祉バスの利便性を図れ

福祉バスは、毎週月曜日と15日に定期運行している。利用者の利便性を考慮して、手上げ方式やデマンド交通(※)を新設する考えは、

町長 運行業者や関係機関との協議が必要。交通手段の選定、利用料金の設定・整合性、経費面の検証など、多くの課題があるが、今後検討する。

※デマンド交通

予約型乗り合いタクシー(バス)のこと。予約し、乗り合う方の自宅を順番に迎えに行き、目的地まで送るサービス。
手上げ方式は、自宅前に立ち、運行しているバスに対し、手を上げて停車させ乗る。

間口除雪を実施せよ

冬期間一人暮らし・高齢者夫婦の世帯では、除雪で苦労している。間口除雪をする考えは、

町長 地方創生加速化交付金事業として、新たな除雪支援事業を進めていく。事業内容は、交付金で取得した小型ホイールローダやハンドガイド式小型除雪機を利用して、NPO法人による有償ボランティアが間口除雪支援を行う。



高齢者の間口除雪は大変



保育料の軽減はできないか

村岡 藤弥 議員

児童手当で対応したい

町長

子育て支援は

町民税所得割額や同時入所など条件によっては第2子が半額、第3子以降は無料になるが、条件が厳しい。すべての第2子以降は無料にするなど、保育所利用者負担額の軽減はできないか。

町長 現在、町独自措置としては、2人以上の18歳未満の子を有する世帯で、国の利用者負担額軽減制度に該当しない児童に対し10%減じた額にしている。
創生総合戦略にある「多子世帯への保育料の負担軽減」はどうする。



子育てにやさしい施策を (大石田保育園)

町長 保育所利用者負担は現行制度を継続するが、児童手当などで対応したい。
29年度予算に反映させるのか。
町長 当初予算では対応できないが、やる方向で考えている。

河川氾濫防止対策は

人命を奪う河川の氾濫が各地で起きている。大災害が起きた時の防止策は、町長 パトロールを強化し、維持管理に努める。
河道掘削や樹木の伐採により河道を確保することが災害の予防策だが、



増水時の安全対策を(H26・7)

交流センター

「虹のプラザ」の管理は、町長 教育文化課・生涯学習グループが事務局となり行う。施設の規模からして現行の体制では厳しく職員を増員しなければと考える。

町長 最上川中流整備計画では、町を流れる最上川全域が「樹木管理と河道整備が必要な区間」と位置付けられている。早期実現するよう強く要望する。

利用促進対策は、町長 子育て世代や高齢者の生きがいづくりなどの事業展開ができるよう団体・サークルへの支援をする。またホールイベントは質の高い公演や音楽鑑賞などを行う。
オープンはいづ。
まちづくり推進課長 一般開放は9月1日。図書室は、

町長 3月31日で図書室を閉館し、9月1日虹のプラザで開館する。